

7 . 水源地域動態

7. 水源地域動態

7.1 水源地域の概況

7.1.1 水源地域の概要

九頭竜川流域は、福井県嶺北地方の7市4町（大野市と旧和泉村が合併、福井市と旧清水町、旧美山町が合併、旧芦原町と旧金津町が合併しあわら市、旧坂井町と旧春江町、旧丸岡町、旧三国町が合併し坂井市、旧朝日町と旧織田町、旧宮崎村が合併し越前町、旧今立町と旧武生市が合併し越前市、旧南条町と旧今庄町、旧河野村が合併し南越前町、旧上志比村と旧永平寺町、旧松岡町が合併し永平寺町、勝山市、鯖江市）を中心に、岐阜県郡上市石徹白地区（旧白鳥町）を含め2県の8市4町にまたがっている。

九頭竜川の流域では、古代から人々の生活の跡が、いろいろな地区で見られる。流域での生活の様子は、九頭竜川本川、日野川、足羽川の三大河川がもたらす恵み多い自然の中で、大和や京都の影響を受けながら風土に根ざした文化を育み、歴史を刻んできた姿を数多い遺跡や古墳、文化財などから窺い知ることができる。

現在は、福井平野を中心に武生盆地や大野盆地などで市街地の拡大伸展が見られる。人口は、福井平野を中心とした西側の市町で増加傾向にあり、東側の山間部市町では減少傾向が見られる。西側市町の核は、商業・サービス業を中心とする福井市、工業や商業を中心とする鯖江市と越前市である。また、農業は福井平野を中心として展開されており、東側山間部市町村では若干の工業の展開が見られるものの、林業の不振もあって過疎化が進みつつある。

大野市域の80%を占める森林がもたらす「水」は、名水百選御清水に代表されるように、本市の大きな魅力となっている。清らかで豊かな水は、農業をはじめ素晴らしい食文化を育んできたほか、地場産業である繊維工業の振興にも大きな役割を果たしてきた。

一方、市街地は戦国時代からの町割りが色濃く残り、城下町の風情が味わえる歴史と文化に満ちた空間となっている。今日まで脈々と受け継がれてきた幕末の大野藩に代表される進取の精神や、シンボルの亀山、越前大野城、寺町などは市民の誇りである。

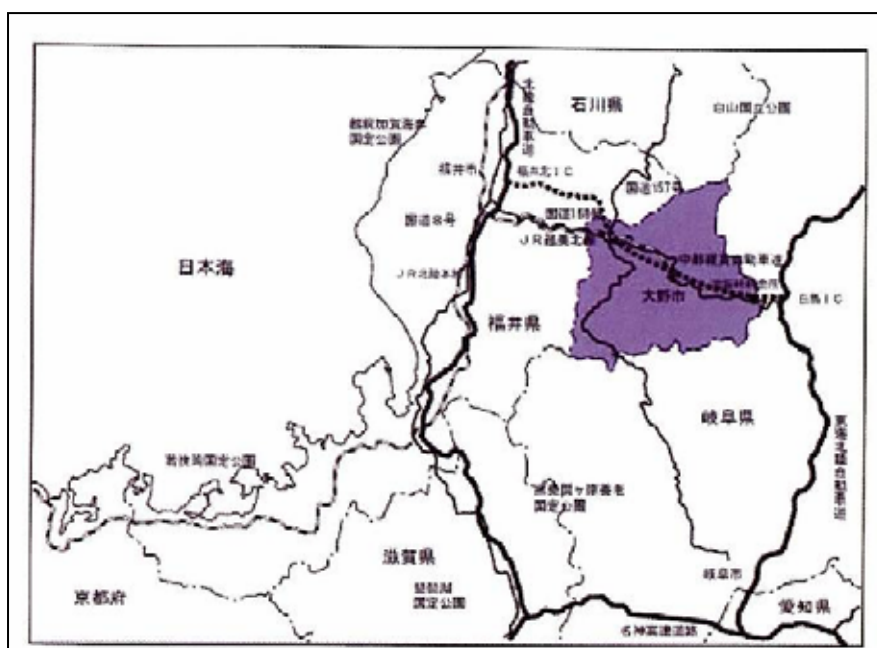
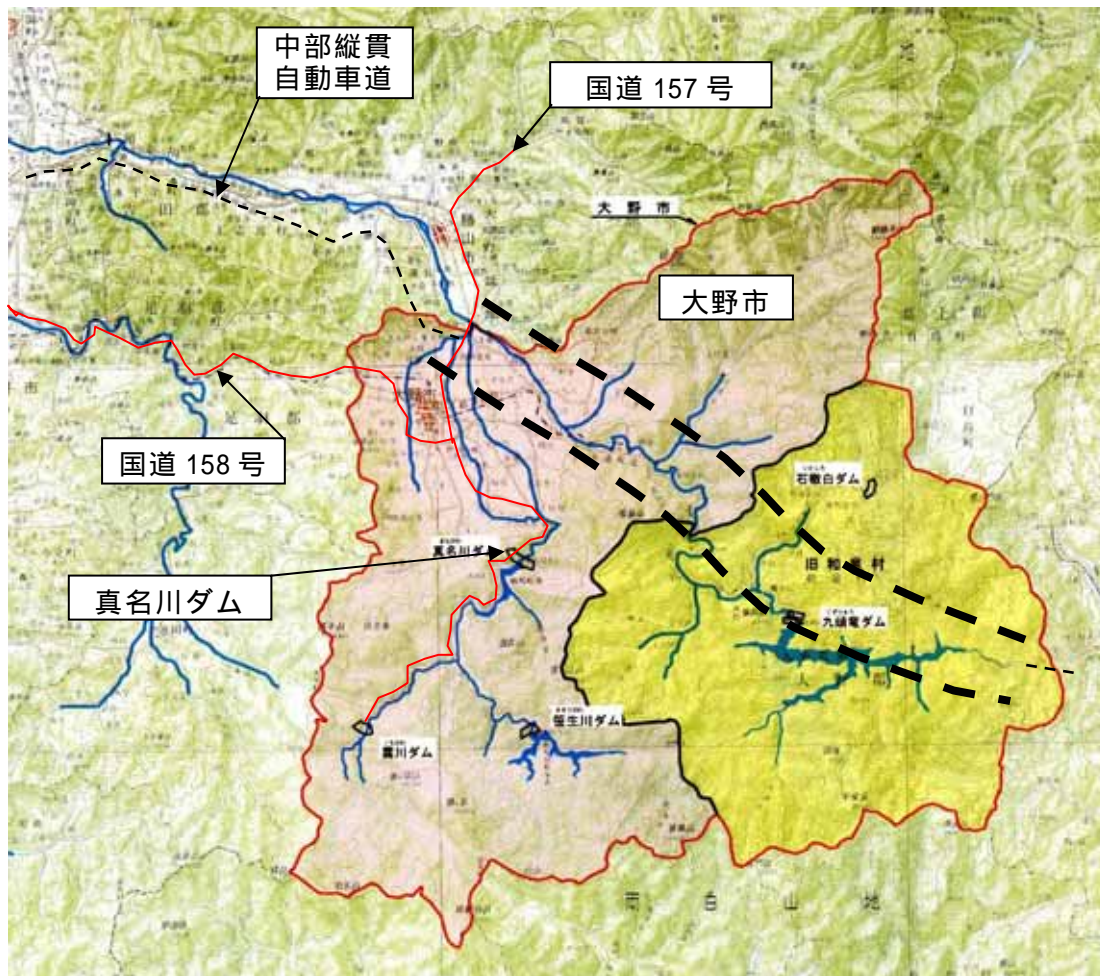


図 7.1 - 1 水源地域の概要図

7.1.2 ダムの立地条件

真名川ダムへのアクセス道路である国道 157 号、158 号は、北陸、中部経済圏の産業、文化の交流を図る幹線道路で地域の振興に欠かすことのできない道路である。なお、真名川ダムには、この道路を利用して行く。

現在、中部縦貫自動車道路が建設中（一部開通）で、これが完成すれば福井県の東玄関口となる奥越前にとっては、地域活性化の強力な起爆剤として期待されている。



交通アクセス（大野まで）

東京から

- JR/東海道新幹線・北陸特急で
- 飛行機/羽田 - 小松 - 福井（バス）
- 高速バス/東京駅八重洲南口 - 福井

大阪から

- JR/湖西線特急で
- 自動車/名神・北陸自動車道で

名古屋から

- JR/北陸線特急で
- 高速バス/名鉄バスセンターJR名古屋駅 - 福井

福井まで

- 3 時間 24 分
- 約 2 時間 15 分
- 約 8 時間 10 分

大野まで

- 1 時間 44 分
- 約 3 時間

- 2 時間
- 約 2 時間 30 分

- ・ JR 越美北線で
約 1 時間
- ・ 京福バス大野線で
約 1 時間

7.2 ダム事業と地域社会情勢の変遷

(1) 水源地域の人口・世帯数の推移

真名川ダム水源地域である旧大野市の人口・世帯数の推移を表 7.2 - 1、図 7.2 - 1 に示す。

昭和 40 年から 45 年にかけて約 2000 人の人口が減少した。それ以降、ダム建設時期を含む昭和 60 年までは横ばい状況が続き、平成以降減少が顕著になってきた。それに対し世帯数は大幅に増加しており、核家族化が進行しているものと考えられる。

表 7.2 - 1 真名川ダム水源地域の人口・世帯数の推移

	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17
旧大野市(人)	43,747	42,241	41,918	41,901	41,926	40,991	40,245	38,880	37,173
世帯数(戸)	9,729	10,090	10,306	10,334	10,485	10,463	10,538	10,829	10,934

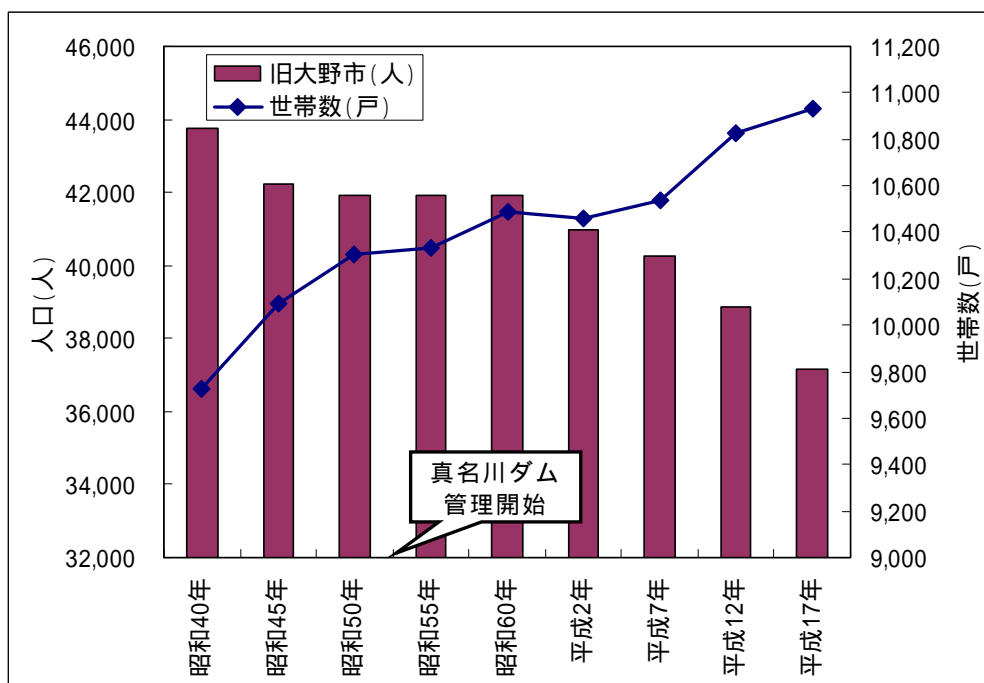


図 7.2 - 1 人口・世帯数の経年変化

出典：資料 7 - 1

(2) 産業別就業者人口

図 7.2 - 2 に事業所数の経年変化を、図 7.2 - 3 に就業者人口の経年変化を、そして図 7.2 - 4 に産業構造の経年変化を示す。就業者人口は、事業所数と比例して減少している。また産業別就業者人口は、第一次産業が大幅に減少し、第三次産業が大幅に増加した。

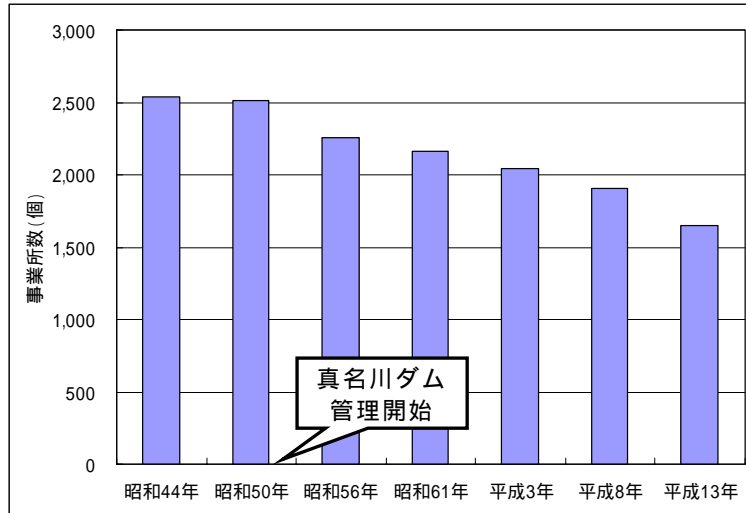


図 7.2 - 2 事業所数の経年変化

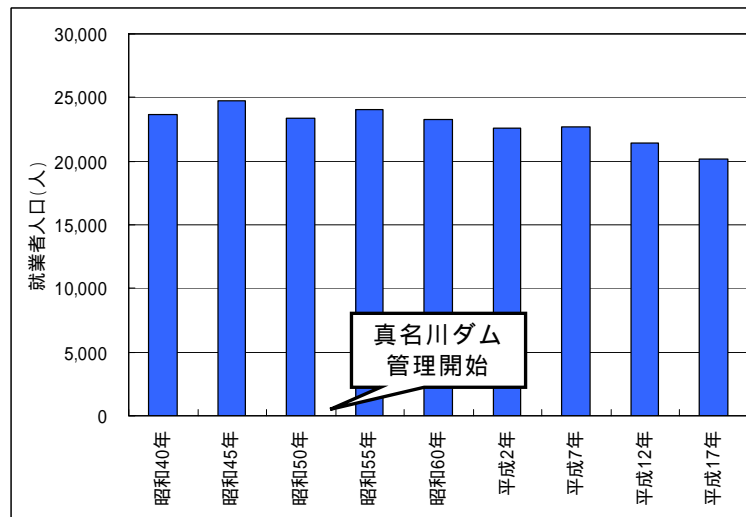


図 7.2 - 3 就業者人口の経年変化

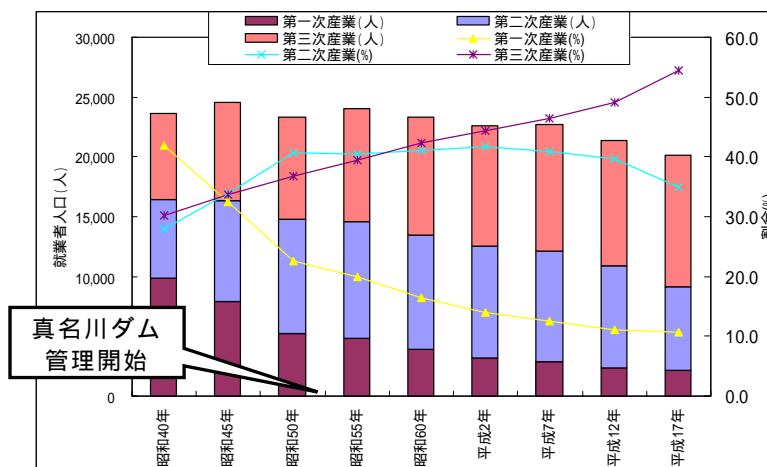


図 7.2 - 4 産業構造の経年変化

出典：資料 7 - 2 , 7 - 3

(3) 観光イベント等の開催

水源地域の大野市では、下記のような観光イベントが開催されている。

大野城さくらまつり(4月)

大野城さくらまつりは、越前大野城(亀山城)周辺において、観桜期間に合わせて各種イベントや体験などが楽しめる。

七間朝市・山菜フードピア(5月)

山菜フードピアは、旬の味覚・山菜を中心に、新鮮野菜や手作り加工品など豊富な量と品揃えが自慢である。



七間朝市・山菜フードピア

九頭竜新緑まつり

九頭竜新緑まつりは、九頭竜ダム一帯がさわやかな新緑につつまれる頃、「食とふれあい」をテーマに毎年恒例の新緑まつりが開催される。



九頭竜新緑まつり

おおの城まつり

夏の一大イベント「おおの城まつり」は、毎年8月のお盆期間に市内の各会場で踊りやイベントを開催する。大花火大会や「越前おおのおどり」など、浴衣の市民や帰省客で、情緒ある町は賑わいをみせる。



おおの城まつり

三大朝市物産まつり

三大朝市物産まつりは、毎年10月の第4土・日7日間通りで開催される秋の食祭である。大野の朝市を始め、有効市町の朝市や物産の即売など、各地のとれたての山海の幸が勢揃いする人気のイベントである。



三大朝市まつり

九頭竜紅葉まつり

紅葉まつりの会場となる国民休養地はひと際美しい紅葉が目にしみる。特産品のマイタケをはじめとする地区の特産品がずらりと並び、多彩な催しとともに来場者を楽しませてくれる。



九頭竜紅葉まつり

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	11/20	18/19/20 23/24/25	3/4 10/11/12	1/2 8/9/10	21/22/23 28/29/30	13/14 20/21/22 27/28/29	10/11 17/18/19	7/8 14/15/16	4/5 11/12/13	1/2 8/9/10 15/16/17	14/15 21/22/23	2
まつり	九頭竜まつり 花壇まつり 宇波神社の神楽盆踊り	九頭竜まつり 三國祭 七尾市山菜フェスティバル さばまつり 越前うるしの里まつり	ゆりフェスタ あわら北湖湖花見まつり こしのシーサイドカーニバル 越前海苔まつり 今庄そばまつり 九頭竜まつり	はすまつり 越前マリンピア 越前夏まつり	あさひまつり 福井フエニックスまつり	あさひまつり 福井フエニックスまつり 美兵衛花火大会 三國花火大会 若狭おおいのスピーバ火火勢 若狭たかほま火火勢	あわら北湖湖花見まつり O・A・I・K えいへいし納涼まつり・大船あしがし ようろう流しと大花火大会 おおうまつり たけふ夏まつり 六倉念仏 三國山まつり	あわら北湖湖花見まつり 越前マリンピア 越前夏まつり 越前三方焼まつり	越前夏まつり 越前マリンピア 越前夏まつり 越前三方焼まつり	越前夏まつり 越前マリンピア 越前夏まつり 越前三方焼まつり	越前夏まつり 越前マリンピア 越前夏まつり 越前三方焼まつり	お水送り 越前夏まつり 越前マリンピア 越前夏まつり 越前三方焼まつり
とこ	若狭町	若狭町 福井市 若狭町	あわら市 福井市 越前町 若狭町	越前町 若狭町	越前町 若狭町	越前町 若狭町 大野市 越前町 若狭町 若狭町 若狭町 若狭町 若狭町 若狭町	越前町 若狭町	越前町 若狭町	越前町 若狭町	越前町 若狭町 若狭町 若狭町 若狭町 若狭町 若狭町 若狭町 若狭町 若狭町	若狭町 若狭町 若狭町 若狭町 若狭町 若狭町 若狭町 若狭町 若狭町 若狭町 若狭町 若狭町	若狭町

福井県年間行事日程

7.3 ダムと地域の関わりに関する評価

7.3.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理

真名川ダムは、「名水のまち」大野市の近郊に立地するダムであるが、雄大な奥越山岳地帯に位置する奥山型ともいえる立地条件にあり、周辺は福井県内で有数の林業地帯でもある。都市域との広域的な交流は比較的利便性が良く、大野市街地との連携・ネットワークにより、その活用が大いに見込める条件にある。

(1) 真名川ダム水源地域ビジョン

「水源地域ビジョン」は、従来の水源地対策から、ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図り、流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図る総合的な整備への転換を目指したものである。ダム水源地域の自治体・住民等がダム事業者・管理者と共同で策定主体となり、下流の自治体・住民や関係行政機関に参加を呼びかけながら策定する水源地域活性化のための行動計画である。

平成16年(2004)3月に策定した水源地域ビジョンの基本方針は、以下のとおりである。

里山の再生 - 水源林を保全する

健全な水循環を確保する第一歩として、美しい森林の緑のダムを人々の理解や愛着によって再生する必要があります。
林業の活性化だけでなく、国土保全としての防災的な必要性とともに、雇用確保などの今後の社会的な課題となることが考えられます。

清水や水路の自然再生 - 地域的な水管理に取り組む

様々な用途で利用され重要な地域資源となっている大野の地下水や、市内の水路や河川などの地下水涵養の供給源を保全し、大野の情緒ある生活環境やうるおいのある自然環境を再生します。
従来の地域用水の様々な管理状況を見直し、真名川ダムの貯水池運用の工夫とともに、下流の水路網の整備による農業用水の配水管理を検討します。
イトヨやホタルが生息する水空間の再生や豊かな地下水を取り戻すとともに、水管理における関係機関での調整や市民参加での取り組みが極めて重要となります。

人間関係の再生 - 上下流交流を促進する


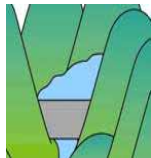
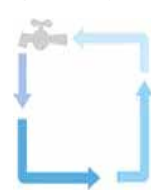


大野の水環境を改善しながら、高齢者福祉まで含めて地域の相互扶助が拡充していく必要があります。
地域の水環境の保全に向けて地域の共同体を再生し、さらに下流との広域交流の受け入れ体制づくりなどを進め、地域の結束を高めて人間関係を豊かにすることが重要です。

図 7.3 - 1 真名川ダム水源地域ビジョン基本方針

出典：資料 7 - 4

真名川ダム水源地域ビジョンにおける具体的な施策を以下に示す。

「水のグランドデザイン」としてのビジョン施策のメニュー

施策の柱	施策	具体的内容	
水源林の保全 (水源涵養と 林業の活性化) 	森林施業との連携	・健全な水循環・水源涵養機能保全や観光資源の保全のための森林施業と連携した山林の維持管理・保全	
	雑木林(里山)の活用	・交流拡大のための下草刈りや落葉かき等、山林保全活動と組合せて楽しめる多彩なイベント・メニューの提供	
	林業ボランティア	・循環型社会や環境をテーマに活動する各種の組織・団体等の幅広い環境ボランティアとの連携の検討 ・環境保全活動へのボランティア参加についてのメニュー企画や、意識啓発及び地域間交流の促進	
大野の「水」 	ダム管理と周辺整備	河川の維持流量等の確保の研究 ・適正な水利用、河川及び市内水路での流量確保の研究 ・非かんがい期の「目に見える水路」に水を流す検討	
		地下水保全を図る貯水池運用の研究	・真名川ダム貯水池運用の工夫による放流可能量の確保や、それによる地下水涵養等の研究
		中島公園の充実	・日帰り・宿泊用のレクリエーションの機能の充実 ・周辺の山を生きた自然観察園としての活用 ・川や湖面での釣り等、水面の活用についての研究
		大野盆地の健全な水環境	水路網の復元 ・大野市の風景として市内を流れる水路網の景観保全 ・覆蓋されている水路での「せせらぎ」の可視化
		水を活かした公園づくり	・水環境・親水性のある公園(ビオトープ)の整備
		農業用水管理との連携	・地下水涵養源である田圃による湛水期間と面積の拡大 ・用排水路に可能な限りの通水
		地下水位のモニタリング	・市内中心部の地下水位の監視の継続 ・市民や地下水利用者への理解のための地下水状況の広報
		水と社会との関わり (情操や環境啓蒙活動)	水文化や愛護活動 ・水文化や水の歴史をテーマにしたフォーラム等の開催 ・水環境保全の活動(河川清掃・生き物観察等)企画
	上下流交流 (都市との 広域交流) 	NPO活動の拡充	・山林・河川の維持管理等、循環型社会や環境に関する各種の組織・団体・環境ボランティア等との連携や活動拡充
		活動の人材の確保・育成	・交流活動の活性化に関する人材の発掘、人材ネットワークの作成、活性化活動をリードする団体・個人等の育成 ・各分野のマイスターや環境学習インストラクターの募集
近隣地域との相互訪問		・環境保全活動へのボランティア参加についてのメニュー企画や、意識啓発及び地域間交流の促進	
県外との交流		・受益地等の関係地域の住民による水源地域の維持管理の参加のため、環境ボランティアの参加・受入れ体制の確立	
中山間地域の活用		・周辺市町村からの誘致などによるグリーンツーリズム	
各種情報の発信	・水源地の実態や都市交流のための情報発信 ・地域の相互連携や都市との交流のための各種情報の発信 ・光ファイバー網の活用		

(2)真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンの推進

平成 17 年 11 月の大野市と旧和泉村の合併に伴い、真名川ダム・九頭竜ダムの一体となった水源地域ビジョンを推進するため、平成 18 年 2 月には、「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会」を立ち上げた。

「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン」は、ダム水源地域の自治体・住民等がダム事業者・管理者と共同で策定主体となり、下流の自治体・住民や関係行政機関に参加を呼びかけながら策定する、水源地域活性化のための行動計画である。

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンでは、「森林」、「水」、「交流」を 3 つの柱のもとに水源林の保全や活用、健全な水環境の形成、多様な水辺の活用、活発な地域間の交流など様々な施策を実行することにより、水源地域の持続的な発展を目指す。

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンの施策のイメージおよび施策の体系は、図 7.3-2 および図 7.3-3 に示すとおりである。



御清水



奥越高原県立自然公園



九頭竜紅葉まつり

図 7.3 - 2 施策の実施イメージ

出典：資料 7 - 4



図 7.3 - 3 施策の体系

出典：資料 7 - 4

また、真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会の下部組織として、地域の活動団体等で構成する「森林」、「水」、「交流」の3部会を設立した。

ビジョンの推進組織の構成と多様な活動主体との協働関係を図 7.3 - 4 に示す。

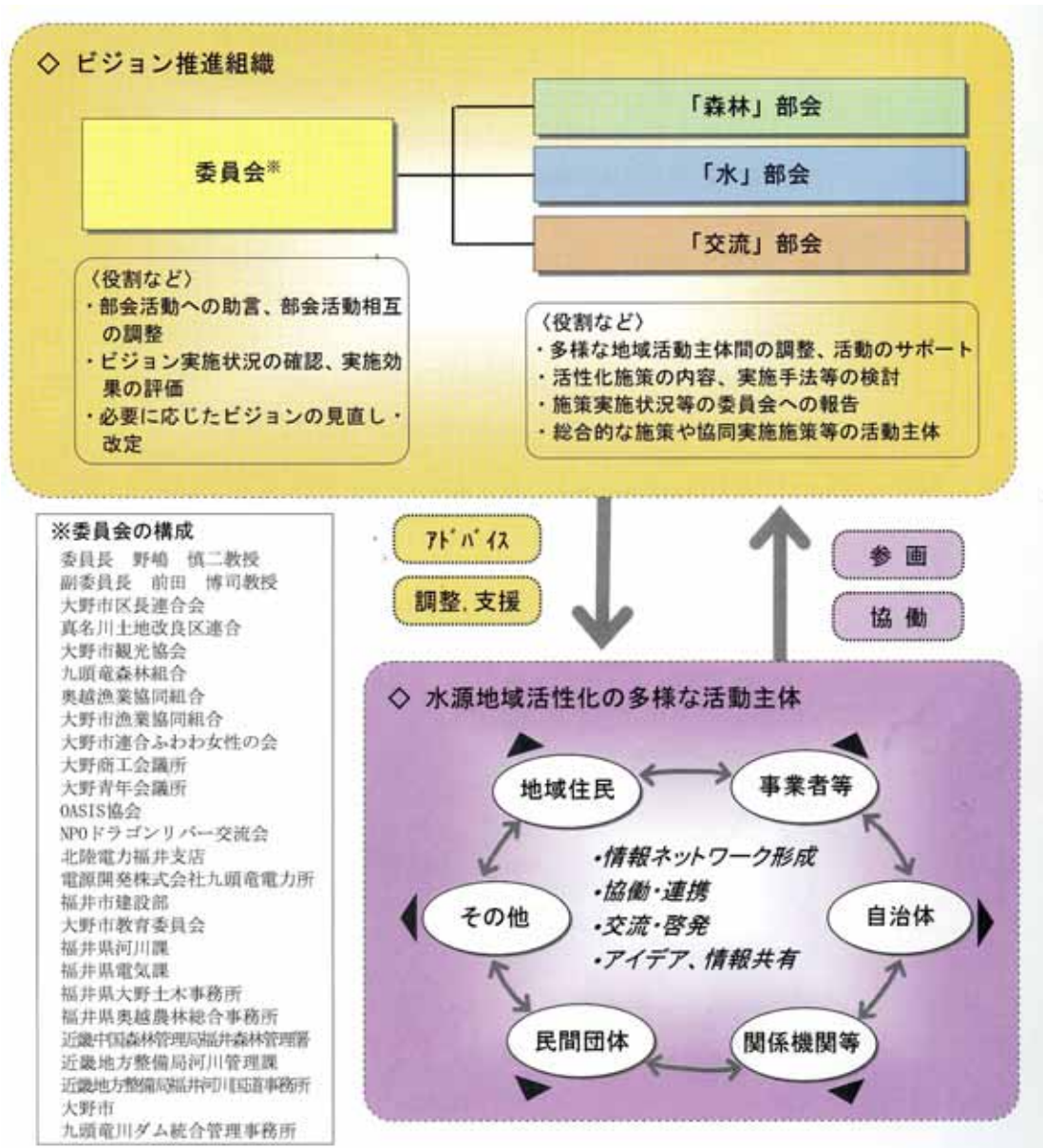


図 7.3 - 4 ビジョン推進組織と多様な活動主体との協働

出典：資料 7 - 4

これまで、真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンの一貫として以下の施策が実施されている。



植樹会



森と湖のキャンプ

写真 7.3 - 1 実施施策

7.3.2 地域とダム管理者との関わり

真名川ダムでは、「森と湖に親しむ旬間」の行事の一環として、中島公園において大野市主催による「おおのネイチャーフィールド」を開催するとともに、ダム管理所では組織として地域との関わりを深めるために活動を行っている。真名川ダム見学会は、その活動の1つである。ダム見学者数は、図 7.3 - 5 に示すとおり、平成 16 年を除き、毎年増加している。



写真 7.3 - 2 真名川ダム見学会

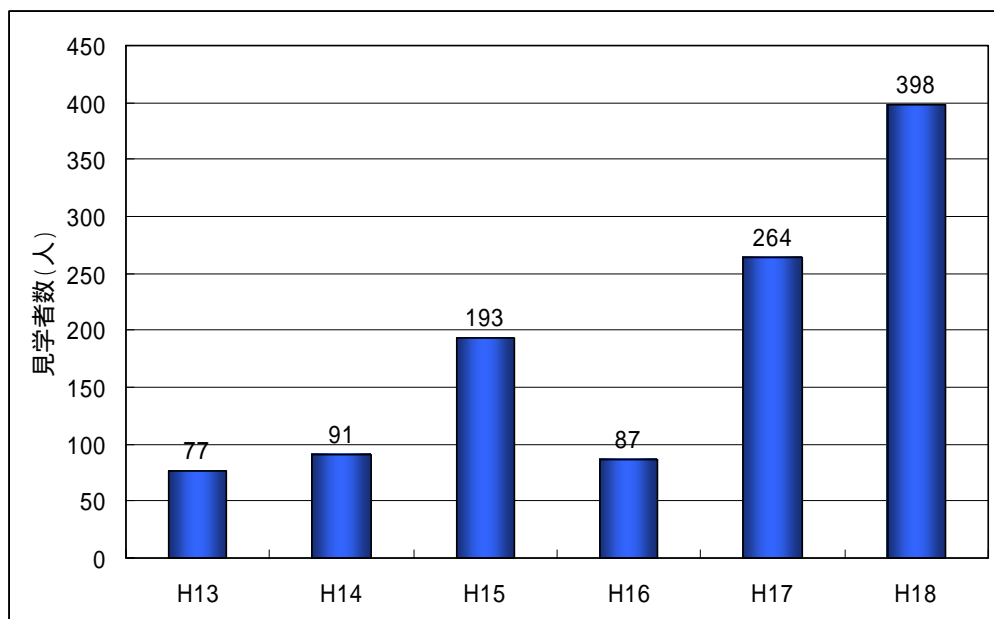


図 7.3 - 5 ダム見学者数の推移

7.4 ダム周辺の状況

7.4.1 ダム周辺整備の状況

真名川ダム周辺では、図 7.4 - 1 に示す施設を、ダム周辺環境整備で実施した。

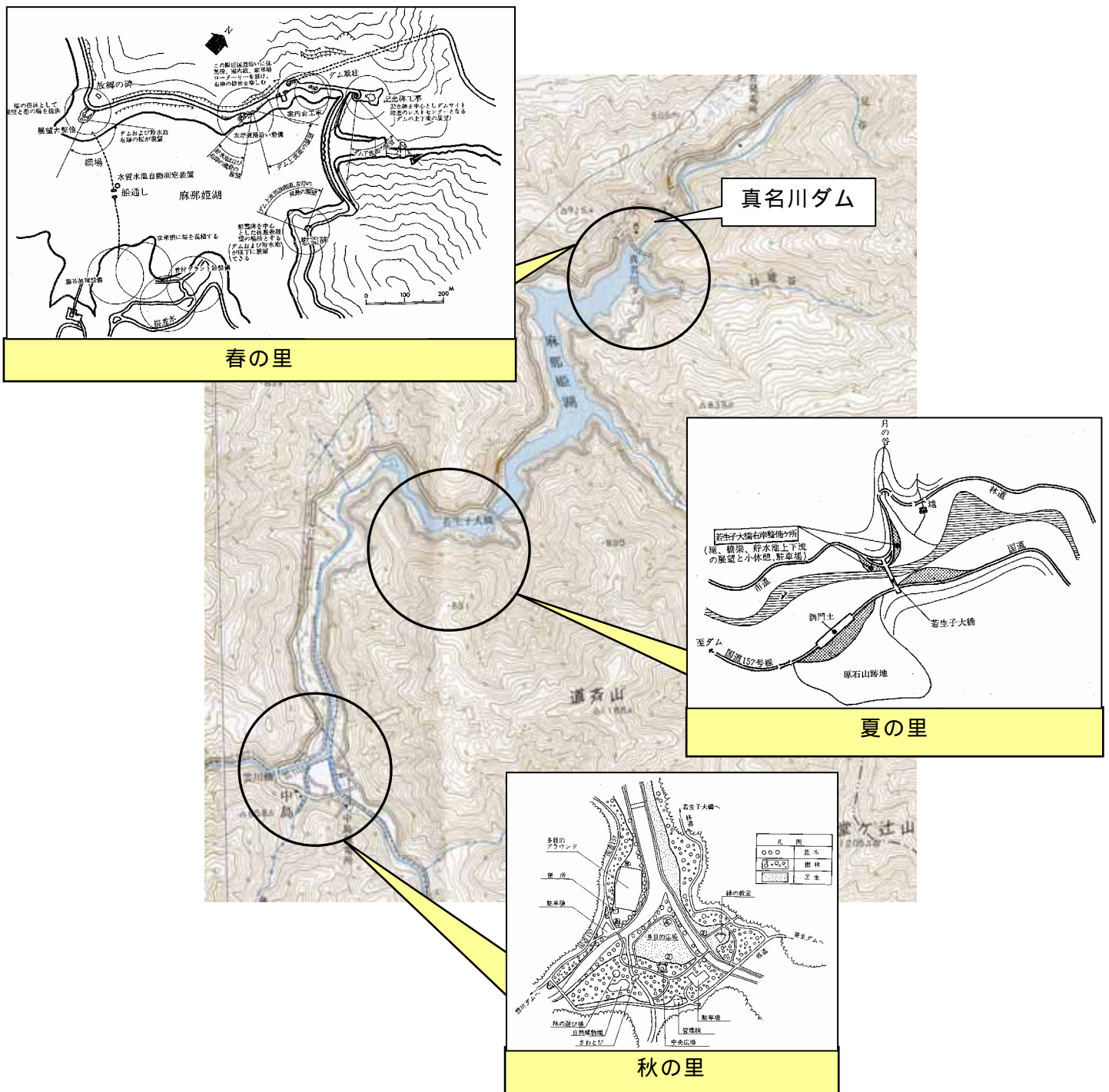


図 7.4 - 1 ダム周辺環境整備状況

7.4.2 ダム及びダム周辺のイベント等の開催状況

(1) 森と緑に親しむ旬間行事

真名川ダムでは、「森と湖に親しむ旬間」の行事の一環として、ダム見学会や中島公園におけるイベントが行われている。

平成 18 年度は、1) 森と湖に親しむ集い in 真名川 2) 親子水源地見学バスツアー、3) 真名川ダム見学会、4) フォーラム開催「水源地域の明日を考える、に合計 888 人の来場者があった。平成 20 年には、九頭竜ダム・真名川ダムを会場として「森と湖に親しむつどい全国行事」(主催「九頭竜ダム・真名川ダム「森と湖に親しむ旬間」全国行事現地実行委員会」)が開催される予定である。

図 7.4 - 2 森と湖に親しむ旬間パンフレット



図 7.4 - 3 気球体験



図 7.4 - 4 ダム見学会

出典：資料 7 - 5

7.5 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用者実態調査）結果

ダム湖利用者実態調査は、「河川水辺の国勢調査（ダム湖版）（国土交通省河川局河川環境課）」により、平成3年度（1991）から3年ごとに実施しており、四季を通じた休日5日、平日2日の合計7日の現地調査（利用者アンケート調査：直接ヒアリング、利用者カウント調査）を実施し、年間利用者数の推定を行うものである。

ダム湖利用実態調査のブロック区分施設位置図を図7.5-1に示す。真名川ダムのダム湖利用実態調査では、2つのブロックに区分して調査を実施している。

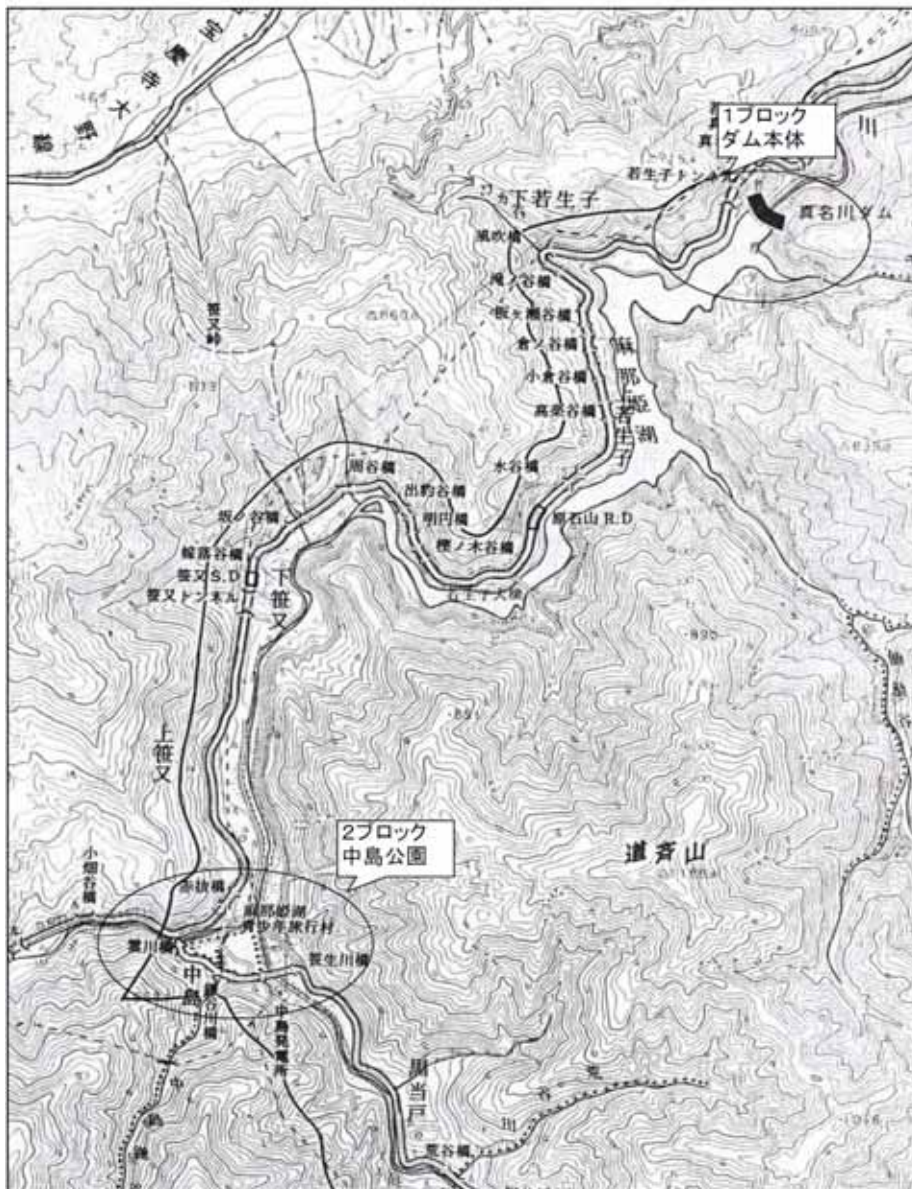


図 7.5 - 1 ブロック区分施設位置図

年間のダム湖利用者数の推計に当たっては、季節、休日と平日の違いを考慮し、各季節の休日、土曜日、平日の利用者数（実測値を基本とする）を原単位とし、それに各季節の休日・土曜日・平日の日数を乗じた推計値にイベント調査結果を加えることにより、年間利用者数の推計を行っている。

各季節の期間、休日・平日の日数は以下のとおりの区分とした。

春季：3/1～5/31（休日 16 日、土曜日 11 日、平日 65 日）

夏季：6/1～8/31（休日 15 日、土曜日 13 日、平日 64 日）

秋季：9/1～11/30（休日 18 日、土曜日 13 日、平日 61 日）

冬季：12/1～2/29（休日 17 日、土曜日 13 日、平日 61 日）

各季節の土曜日および秋季・冬期の平日については実測値がないため、平成 4 年度に行った補足調査結果より得られた全国平均の比率を乗じる（土曜日 = $0.37 \times$ 休日、平日 = $0.18 \times$ 休日）ことにより、原単位を求めた。

平成 15 年度における年間利用者数は約 10 万 8 千人と推計される。なお、年間のダム湖利用者数の推計に当たっては、季節、休日と平日の違いを考慮し、各季節の休日、土曜日、平日の利用者数（実測値を基本とする）を原単位とし、それに各季節の休日・土曜日・平日の日数を乗じた推計値にイベント調査結果を加えることにより、年間利用者数の推計を行った。

真名川ダム（麻那姫湖）の目的は、「野外活動」がほぼ大部分を占めており、ダム上流部にある麻那姫湖青少年旅行村の公園（キャンプ場）施設利用が多く、過去の調査結果から見てもアウトドア的な利用が大半を占めている。なお、平成 3 年度の調査の来場目的の設問は、「スポーツ」、「釣り」、「ボート」、「散策」および「その他」であったが、平成 6 年度の調査からは、設問に「野外活動」と「施設利用」を追加している。

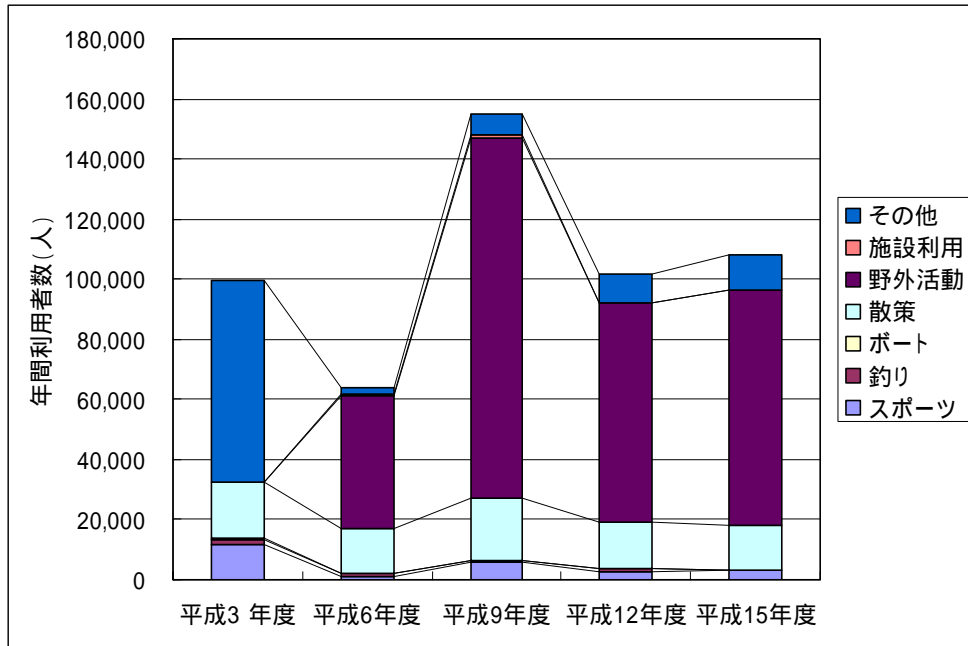


図 7.5 - 2 河川水辺の国勢調査 (ダム湖版) 結果

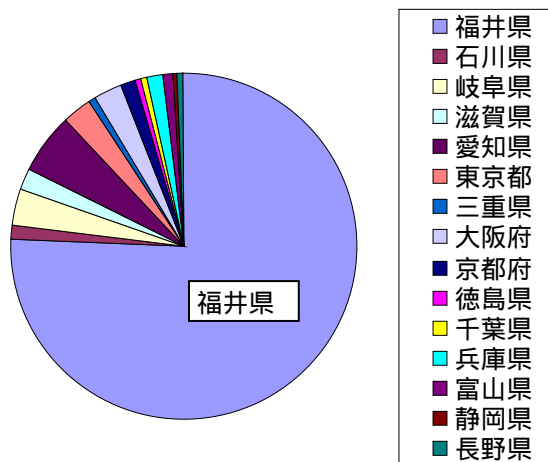
表 7.5 - 1 ダム周辺施設利用人数 (河川水辺の国勢調査による)

(単位: 千人)

		平成3年度	平成6年度	平成9年度	平成12年度	平成15年度
利用 場所 別	湖面	2,326 (2.3%)	2,690 (4.2%)	8,076 (5.2%)	1,111 (1.1%)	5,507 (5.1%)
	湖畔	90,369 (90.9%)	59,097 (92.7%)	136,875 (88.2%)	84,513 (83.8%)	88,749 (81.9%)
	ダム	6,684 (6.7%)	1,937 (3.0%)	10,275 (6.6%)	15,860 (15.6%)	14,969 (13.0%)
合計		99,379	63,704	155,226	101,484	108,316

出典: 資料 7-6

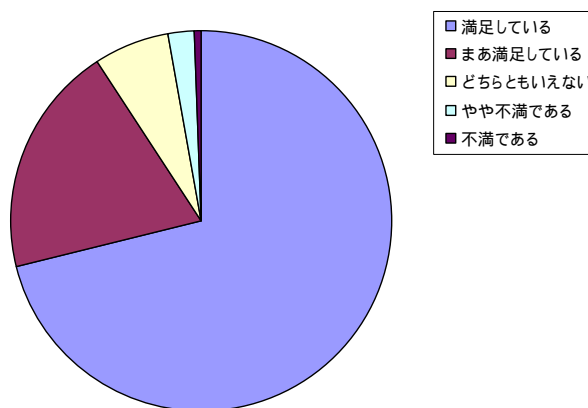
平成 18 年度のアンケート結果から、真名川ダム及び周辺施設への来訪者は、福井県内からが約 75%、県外からが約 25%である。



出典：資料 7-7

図 7.5 - 3 真名川ダムおよび周辺施設へ来訪者の発地調査結果

また、来訪者への満足度調査結果から、「満足している」、「まあ満足している」と回答した人は、合計約 90%であった。また、来訪理由としては「景色がきれい」、「自然が豊である」が多い。



出典：資料 7-7

図 7.5 - 4 真名川ダムおよび周辺施設へ来訪者の満足度調査結果

7.6 まとめ

ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化を図るため、平成 16 年 3 月に「真名川ダム水源地域ビジョン」、平成 17 年 3 月に「九頭竜ダム水源地域ビジョン」を策定した。さらに平成 18 年 2 月には、大野市、旧和泉村の合併に伴い両ビジョンを一体的に推進する「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会」を設立し、施策の推進を図っている。

ダム湖周辺のイベントとして「森と緑に親しむ旬間」、「おおのネイチャーフィールド 2005」などのイベントを実施しており、受益地域と水源地域の交流や地域コミュニティの向上に努めている。

< 今後の方針 >

今後も引き続き、水源地域の活性化を図れるよう、積極的に地域と関わり水源地域ビジョンを推進していく。

また、受益地域と水源地域の交流や地域コミュニティの向上に努めていく。

7.7 文献リスト

表 7.7 - 1 使用した文献・資料リスト

No.	報告書またはデータ名	発行者	発行年月日	箇所
7-1	国勢調査（人口・世帯）	（財）統計情報研究会開発センター	昭和 40 年～平成 17 年	人口・世帯
7-2	事業所統計調査報告	総務庁統計局	昭和 44 年～平成 13 年	事業所数
7-3	国勢調査（就業者人口）	総務庁統計局	昭和 40 年～平成 17 年	就業者
7-4	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン	大野市、九頭竜川ダム統合管理事務所	平成 18 年 3 月	水源地域ビジョン
7-5	平成 17 年度真名川ダム管理フォローアップ年次報告書	九頭竜川ダム統合管理事務所	平成 18 年 1 月	水源地域ビジョン
7-6	平成 15 年度河川水辺の国勢調査〔ダム湖版〕（ダム湖利用実態調査編）	国土交通省河川局河川環境課	平成 16 年 8 月	ダム別の利用実態調査
7-7	真名川ダム ダム湖利用実態調査結果	九頭竜川ダム統合管理事務所	平成 18 年	利用者アンケート